



『活きていることわざ』

船橋市議会議員

神田 廣栄 (かんだひろえい) 議会報告

【事務所】 船橋市飯山満町1-836-5 ☎420-6511 FAX 424-8712
 ホームページ <http://www5e.biglobe.ne.jp/~hiroei/>
 Eメール hiroei@muc.biglobe.ne.jp

焦眉の急(しょうびのきゅう)・無い袖(そで)は振れぬ

【焦眉の急】・事態が切迫している、危険が身に迫っている、ということ。
 ・眉毛(まゆ)を焦(こ)がすほどに火が迫っている、の意。

【無い袖は振れぬ】・ないものはどうしようもない。援助したいが資力が無い。
 ・袖のない着物では袖を振りたくても振れない、の意。

11月26日から第4回定例会(12月議会)が始まりました。私たち新人議員は3回目の議会となります。少し慣れてきたとはいえ、やはり議会開会には緊張します。今回も60分の時間を頂戴し質問します。

①議員活動は議会で質問すること、地域の要望に応えることの他に、委員会活動があります。私は積極的に「青少年問題協議会委員」に手を挙げました。

この協議会は、会長が市長で、委員に教育長、市議会議員3名、両警察署長、小・中学校長会の代表、自治会連合協議会や民生委員等の制度ボランティアの代表、PTA連合会代表等で総勢22名の構成になっています。

メンバーをみると船橋市全体の主要団体の代表者での構成で、さぞかし内容も充実しているものと思っていました。しかし、7月にあった初めての会合では、諸団体から子供達の関係した活動報告と計画が発表されただけでした。次は2月に部会があり、5月には任期が切れてしまいます。

私たち議員3人は、7月の会合のあと「こんな形式的なことだけでいいのか」という点で一致しました。

そこで11月に、市長と教育長を除く全員に「最近の犯罪の低年齢化を考えると、我々の任務は通りいっぺんの報告と計画の羅列でいいのか。英知を結集して、青少年の健全育成に少しでも寄与しようではないか」と呼びかけたところ『焦眉の急』を察した



これくらいが頼もしい

9名が集まりました。

私がやります



今回はそれぞれの意見交換の場としました。「各地域では以前より様々な催しがあるが、そこに来ている子供達よりも、自発的に参加できない子供達に対する対策を考慮すべきではないか」「児童相談所は船橋市になく市川市の児童相談所が管轄している。船橋市にも絶対必要だ」等貴重な意見がありました。次回の会合は1月に予定しています。是非、実のある会合にしたいと思います。



②9月議会で、厳しい財政状況の今、思い切って「有価物・資源ごみ協力金」と「敬老行事交付金」を廃止してはどうか、と質問しました。両方とも反対意見があることは覚悟の上でした。

「有価物・資源ごみ協力金」は、年間、約1億円が市から回収実施団体（町会・自治会等）へ支出されています。市はさらに回収業者へ約1億5千万円を助成金として支出しています。市が有価物を回収して利益を上げているのではありません。回収しているのは業者であり、その業者とごみを出している市民に税金を支出しているのです。

市の返答は「平成14年度の有価物回収量は約3万2千トンあり、これを可燃ごみとして焼却すると11億6千万円かかる。2億5千万円支出しても9億円余り浮く計算になるので、廃止することは考えない」でした。「ごみ（有価物であっても）」処分に協力金という形で税金を使うことは疑問であり、この分を環境美化活動に回したらどうかと私は思います。

また、70歳以上の方を対象に、町会・自治会が「敬老行事」を行うと、一人あたり2000円の「交付金」が出ます。高齢化が急激に進んでいる現在、毎年5～6千人ずつ対象者が増加していますので、総額が毎年約1億円ずつ増えていくことになります。



元気でーす

77歳の喜寿や88歳の米寿等のお祝い金はそのままして、地区社会福祉協議会が行う「高齢者対象の行事」が多くなっているから「交付金制度」は、廃止することを含めて見直しをしても「福祉の後退」ではないと思うが、と質問しました。

市は「在宅福祉や地域福祉の充実等が重要な課題となっている中、今後、敬老行事への支援の在り方等について、関係者から意見を広く聞いていきたい」と答弁しました。

市も『無い袖は振れぬ』ばかりでは困ります。限りある財源の有効利用を考えていかねばなりません。既得権或いは恩恵を受けていることを改革することは、反感を買ったり、困難を伴いますが、理解を得るよう頑張っていきます。